

ニューズレター雪氷北信越

No. 54 1997年3月3日

(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<案内>

- ・第10回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ
- ・雪氷フォーラム(3/8)
- ・ミニシンポジウム 雪形の広場ー身近な自然を楽しむ方法ー(3/23)
- ・「雪崩対策の基礎技術」研修会(4/9-11:申し込み締め切り3/15)

<報告>

- ・富山地区講習会/観察会
- ・新潟地区雪氷観察会
- ・新潟地区学習会

<その他>

- ・支部賞受賞候補者推薦の募集
- ・「雪氷北信越17号」発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集
- ・関東・中部・西日本支部ニュースより(No. 39 1996年12月発行)
- ・ニューズレターに関する問い合わせ先

<案内>

第10回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

日時：1997年6月7日(土) 10:30~17:00 (17:30~懇親会)

場所：信州大学教育学部講義棟(〒380 長野市西長野6-ロ)

懇親会は当学部「泉会館」

参加費：無料(ただし懇親会参加費は3000円)

予稿集：発表予稿集掲載の「雪氷北信越17号」を当日配布します。

(日本雪氷学会員：無料、非会員：1000円)

<参加申込要領>

発表申し込み：4月18日(金)必着

参加申し込み：4月28日(月)必着

予稿原稿提出：4月28日(月)必着

(次ページの予稿執筆要領に従って作成して下さい。)

送付先：〒940 長岡市栖吉町前山187-16 長岡雪氷防災実験研究所 山田穰宛

Tel: 0258-35-7522 / Fax: 0258-35-0020

＜発表申込用紙＞ 4月18日必着

氏名（所属略記・発表者に○）：

題目：

連絡先：〒

Tel:

Fax:

発表種別（どちらかに○） 1. 研究発表会

2. 製品発表検討会

＜参加申込用紙＞ 4月28日必着

氏名：

所属：

連絡先：Tel:

Fax:

総会： 参加 不参加

発表会： 参加 不参加

懇親会： 参加 不参加

＜研究発表会・製品発表検討会の予稿執筆要領＞

1. 予稿は1ページとします。
2. 原稿は「雪氷北信越17号」にそのままオフセット印刷するため、24ドット以上のワードプロセッサを使用して作成して下さい。A4判上質紙の中央に縦230mm 横170mmの枠を考え、その内部に収まるよう1行あたり48文字以内、1ページあたり42行以内で印刷して下さい。禁則処理や倍角印字などのために上記の枠をはみ出ることのないようにご注意下さい。また左右・上下に空白を均等に配分し、原稿の位置が用紙の中央になるように印刷して下さい。
3. 第1行目にタイトルを、第2行目に氏名・所属を右側に寄せて書き、1行あけて本文を書き出して下さい。
4. 締め切り日を過ぎて到着した原稿は「雪氷北信越17号」には掲載できませんのでご注意下さい。

案内

第30回雪氷フォーラム開催のお知らせ

日時：1997年3月8日（土）14:00-17:00

場所：富山市・富山県民会館701号室（県庁隣、JR富山駅より歩いて7分）

富山市新曲輪 Tel:0764-32-3111

共催：日本雪氷学会北信越支部、関東・中部・西日本支部／協賛：富山県
○フォーラム

セッション 雪氷技術を利用した産業の展開

講演者：富山大

対馬勝年氏

セッション 水を多量に含んだ雪の諸問題

- | | | |
|------------------------|-------------|-------|
| -1 雪解け時の雨と雪—スラッシュ雪の物理— | 講演者：新潟大 | 小林俊一氏 |
| -2 べた雪とスラッシュ雪の工学的諸問題 | 講演者：福井県 | 杉森正義氏 |
| -3 スラッシュ現象に伴う災害 | 講演者：(株)建設基礎 | 安間 荘氏 |

○懇親会

案内 ミニシンポジウム 雪形の広場
—身近な自然を楽しむ方法—

雪形って知ってますか？春、山腹に現れる残雪模様のことです。昔の人は、このような模様にも名前をつけ農作業の目安として利用していました。でも最近では、記録もないままほとんど忘れ去られつつあります。このミニシンポジウムでは雪国の人々にとって身近な春の残雪模様を材料にして、自然とのふれあいの中での雪形の楽しみ方、誰にでもできる雪形研究について考えたいと思います。それとともに、この貴重な雪国の文化を雪のない地方の人たちや世界の人たちに向けて発信していきたいと思っています。

主催：長岡市立科学博物館 / (社) 日本雪氷学会北信越支部
新潟県民俗学会 / 国際雪形研究会

日時：1997年3月23日（日曜日）午前10時、11時、午後1時、2時、3時
（各回とも約1時間で、途中入退場は自由）

場所：長岡市立中央図書館2階講堂（長岡市学校町1-2-2）

対象：子供から大人まで（入場無料）

内容：世界の雪形、雪形の楽しみ方、雪形の観察方法、今なくなりつつある雪形発掘、雪形の科学、自分の雪形を持つ、他

問い合わせ先：長岡市立科学博物館 TEL:0258-35-0184

長岡雪氷防災実験研究所気付 納口恭明 TEL:0258-35-7522

案内 第8回「雪崩対策の基礎技術」研修会のお知らせ

(社) 日本雪氷学会主催の雪崩研修会を下記の要綱で開催します。今回はこれまでの反省と講習生の希望から、より専門的な知識の習得と経験ができるように第2日目の午後を「行政、コンサルタント関係」と「スキー場、登山関係」の2つの分科会に分けて実施することとしました。

開催日：1997年4月9日（水）～11日（金）

会場と宿泊：新潟県湯沢町 湯沢東映ホテル

研修内容：

第1日目（4/9）

13:00 集合受付

13:30 開講式

14:00-15:30 降積雪と雪崩の基礎知識

遠藤八十一

15:40-17:10 積雪観測法

和泉 薫

17:20-18:30 VTR による雪崩学習

新田隆三

懇親会

第2日目(4/10)

9:00-10:30 スキー場の雪崩対策と山の見方

町田 誠

10:40-12:10 諸外国の雪崩対策と雪崩教育

新田隆三

第一分科会(行政、コンサルタント等関係者を対象)

13:00-14:30 雪崩被害の実態と対策

加藤信夫

14:40-16:10 集落保全の雪崩対策と調査方法

加藤信夫

16:20-17:30 雪崩防止工概論

石川秀也

第二分科会(スキー場、登山者等関係者を対象)

13:00-14:30 雪崩埋雪者の捜索救助と留意点

中山建生

14:40-16:10 雪崩ビーコンによる捜索方法

萩元茂治

16:20-17:30 雪崩現場における応急医療処置

大村道雄

夕食・自由交流

第3日目(4/11)ー現地研修ー

8:00-10:30 雪崩対策工の現地検討

町田 誠

10:30-12:30 積雪観測法実習

和泉薫・遠藤八十一・上石勲

13:30-15:00 雪崩捜索、救助法実習

中山建生・大村道雄

15:30-16:00 閉校式(湯沢東映ホテル) 夕刻解散の予定

受講料: 1人6万円(全員宿泊、2泊6食、テキスト代、バス代を含む)

都合で通いの場合5万円

参加申し込み:

下記事務局へ案内状(申込書付き)の郵送先をはがき、Faxなどでご指示下さい。3月15日受講申し込み締め切り、3月下旬に受講者を決定し通知します。

(社)日本雪氷学会事務局 Tel:03-3261-2339 / Fax:03-3262-1923

〒102 東京都千代田区富士見 2-15-5 ベルベデーレ九段 207号室

<報告>

報告 科学教室「雪を調べる」ー富山地区講習会/観察会ー

1月25日(土)午後1時半から3時半に富山市科学文化センターとの共催行事として実施した。雪がないのではと危ぶまれたが、この冬にしてはまとまった降雪が前日よりあった。それでも、積雪はわずか15センチほど。ただ、少ないながらも、野外で雪の温度や重さ、雪粒子のルーペ観察を行うことができた

のは幸いであった。室内では、雪の一生（黒部市吉田科学館制作）のビデオ放映、飯田肇氏による立山ヒマラヤの雪や氷河と気候変動の話、石坂の雪の結晶や積雪の性質の話などを行った。またその間、雪が降ってきたのを見計らって、冷えた灯油に雪片を受けて室内に持ち込み顕微鏡観察を行った。大人も含め実際に雪をさわって測ることに新鮮さを感じているようであった。参加者は飛び入りを含め 18 名であった。
（石坂雅昭幹事 記）

報告 新潟地区雪氷観察会

～雪と氷のポケットサイエンス～

今冬も標記の観察会が 2 月 16 日（日）に長岡雪氷防災実験研究所を会場にして開催されました。この行事は、毎年、同研究所の職員の皆さんに講師をお願いし、その施設・設備を利用して、レーダーでの雪雲の観察、低温室での氷の観察や実験、積雪断面観測、雪上レクリエーションなどを行なっているものです。

今年は、積雪が 40cm ほどと少なかったことや、当日の天気予報が良くなかったことから、低温室内での実験・観察に時間を割いてみました。今年新たに実施したのは、氷の薄片観察や過飽和の実験でしたが、過飽和の実験では、その場でシャーベット状の氷に濃縮乳酸飲料をかけて食べてもらったところ、たいへん好評でした。屋外での活動は雨にたたられてしまいましたが、傘を片手に見守る親の前で、子供たちはびしょぬれになりながら喜々として雪玉をすべらせていました（今年新開発の雪玉カーリング）。

参加人数は 12 名と少なかったものの、盛りだくさんのメニューに大満足のようでした。
（長岡市立科学博物館 加藤正明氏 記）

報告 新潟地区学習会の報告

1997 年 2 月 20 日（木）15 時から新潟地区学習会が長岡雪氷防災実験研究所で開催され、24 名の参加者があった。講師には、前号のニューズレターで案内した極地研の牛尾収輝氏以外に国際基督教大学の永崎智晴氏と山形大学の佐藤真理子氏が加わりフレッシュかつ多彩な顔ぶれとなった。3 人の講師の方々は、この学習会のみのためにわざわざ東京や山形からおいで下さった。演題は、牛尾氏が「南大洋ウィルクスランド沖における海水消長の特異性」、永崎氏が「質点モデルによる雪崩の流路」、佐藤氏が「蔵王の樹氷」であり、ホットな観測結果や実験結果に基づいた講演ばかりであった。24 名の参加者のうち、10-20 代の学生が 9 名も占めていたことは大変喜ばしいことであり、学習会の後行われた懇親会を盛り上げる大きな要因にもなった。
（河島克久幹事 記）

<その他>

支部賞受賞候補者推薦の申し出について

1997年度支部賞受賞候補者の推薦には、支部の理事および評議員が下記の項目を記載して4月10日までに書類を支部事務局へ提出することとなっております。候補者にお心当たりの方は、期限に間にあるようにお近くの理事あるいは評議員へお申し出下さい。

記

- (1) 雪氷技術賞、大沼賞、雪氷功労賞の区別。
- (2) 推薦者の氏名、所属、職名。
- (3) 受賞候補者の氏名。
- (4) 推薦理由書(の功績などの受賞表題をあげ、800字程度にまとめたもの)
- (5) 上記の理由書を証明する関係書類があれば添付する。

「雪氷北信越 17号」発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会では、1997年6月1日に「雪氷北信越 17号」の発行を予定しています。つきましては下記のとおり、随筆・評論的な自由投稿文を募集しますので、奮ってご投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集しますのでご連絡下さい。

1. 締め切り：1997年4月28日(月)必着
2. 字 数：3000字程度(用紙は自由)
3. 問い合わせ・連絡先：ニューズレターの問い合わせ先と同じ

関東・中部・西日本支部ニュースより(No. 39 1996年12月発行)

- ・随想 雪と送電線(入門時と荘田博士の追想) 柏村良一(東電設計(株))
- ・第27回雪氷フォーラム報告「寺田・中谷・地球・極地」 菊地時夫(高知大学)
- ・第28回雪氷フォーラム報告「雪と氷の世界から見た地球環境の変動」
- ・第29回雪氷フォーラム開催のお知らせ
- ・1996年度(社)日本雪氷学会関東・中部・西日本支部第3回役員会報告

ニューズレターに関する問い合わせ先

(社)日本雪氷学会北信越支部編集担当幹事 竹内由香里

〒940 長岡市栖吉町前山 187-16 長岡雪氷防災実験研究所

Tel: 0258-35-7522 / Fax: 0258-35-0020 / E-mail: yukari@nagaoka.bosai.go.jp